

## アラビア半島からの文化芸術の躍動 サウジアラビアと UAE のアート支援 積極化と国家戦略



オリックス銀行管掌役員補佐 総合推進部管掌 藤井 竜平



サウジの友人宅での夕食会で



南條前森美術館館長とアブダビのシェイク・ザーイド・グランドモスク前で

### はじめに

- ・今年2月下旬から約1週間、アート・フェアやビエンナーレ（隔年開催の美術展）などを観に、前森美術館館長の南條史生氏とともにサウジアラビアとアラブ首長国連邦（UAE）を訪問。筆者は、2013年から2020年迄の約8年間、みずほ銀行のサウジ現法社長やドバイ駐在のトルコ・中東・北アフリカ地域統括責任者として、サウジアラビアやUAEに勤務し、帰国後も、現地の知人達との交流は続いていた。昨年11月には現地の友人の誘いで、帰国後約3年ぶりに両国をプライベートで訪問し、特にサウジアラビアの社会・経済の変革には驚かされた。今回は趣味のアートを軸にして両国に再度訪問し、アート関係者、両国の政府関係者、ビジネスプロフェッショナルなど、幅広い層と面談。
- ・今回の訪問で、両国がともにアートを国家ブランディングや産業多角化の一環として積

極的に利用していること、フランスが、ルーブルアブダビやサウジの北西部の地方都市アルウラー（AlUla）支援等で巨額のアドバイザー料を受領するなど、ソフトパワー外交とビジネスとを上手く駆使して相手国に入り込んでいること、が強く印象に残った。

・今回の訪問をベースに以下の3項目に沿って両国のアート戦略と日本へのインプリケーションを考察。

- (1) 両国の経済状況概要
- (2) 両国のアートイベントや投資の概要
- (3) 日本へのインプリケーション（文化・アート政策やビジネスチャンスなど）

## (1) 両国の経済状況概要

### 1 経済状況概要

2022年	サウジアラビア	UAE	カタール	クウェート	オマーン	バーレーン
GDP（億ドル）	11,081	5,071	2,364	1,828	1,101	442
世界ランキング	18位	32位	52位	57位	64位	93位
自国民一人あたり（ドル）	56,450	395,215	696,113	121,333	36,611	61,067
GDP成長率（%）	8.7%	7.9%	4.9%	8.9%	4.3%	4.9%
G20内ランキング	1位	NA	NA	NA	NA	NA
外貨準備（億ドル）	4,594	1,341	420	479	175	45
自国民一人あたり（ドル）	23,403	104,513	123,675	31,793	5,819	6,217
原油確認埋蔵量（億バレル）	2,975	978	252	1,015	54	1
自国民一人あたり（バレル）	15,156	76,222	74,205	67,370	1,796	138
人口（万人）	3,218	987	283	486	493	154
自国民比率	61%	13%	12%	31%	61%	47%

（出典）IMF、外務省、各国中銀などの資料から抜粋。原油確認埋蔵量と自国民比率は2020年。

#### ① サウジアラビア

GDPは1.1兆ドルと世界18位の水準で湾岸諸国最大。2022年のGDP成長率は、高い石油生産量に加えて、民間消費や非石油部門の大規模投資に支えられて、G20で最も高い8.7%となった。また、外貨準備や原油埋蔵量で見た保有資産も湾岸諸国で最も潤沢。一方、人口3,200万人と湾岸諸国最大で、自国民比率も6割と高いため、自国民一人あたりのGDP、外貨準備、原油埋蔵量は、UAEやカタールなどに劣後。雇用創出や経済成長は、社会安定化にも極めて重要であるが、2016年にサウジ政府は長期的な経済・社会の構造改革「Vision2030」を発表し、脱石油依存や経済多角化とともに、女性の社会進出促進やアート・エンタメ産業の育成を推進中。

## Vision2030の概要

テーマ	2030年迄の目標抜粋
活力溢れる社会	国内における文化・娯楽活動への個人消費を2.9%から6%に上げる UNESCOの世界遺産登録数を2倍以上（8件以上）にする 3都市を世界の都市トップ100の上位にランクインさせる
経済の繁栄	GDPに占める民間部門の貢献の割合を40%から65%に上げる 公的投資基金（PIF）の資産を6,000億リヤルから7兆リヤル（約1.9兆ドル）を増やす 失業率を11.6%から7%に下げる 労働力に占める女性の割合を22%から30%に上げる
意欲的国家	非石油政府収入を1,630億リヤルから1兆リヤル（約2,700億ドル）を増やす 電子政府開発指数（EGDI）で現在の36位からトップ5に入る

（出典）サウジアラビア政府，世銀，IMFなどの資料から抜粋

### ② UAE

GDPは0.5兆ドルで、湾岸諸国ではサウジに次ぐ経済規模。UAEは7つの首長国で構成される連邦国家で、GDPの6割がアブダビ、3割弱がドバイで占める。アブダビが、エネルギー産業、ドバイは貿易投資、交通運輸、金融、観光などのハブ機能により、UAE経済を牽引。2022年のGDP成長率は、高い石油生産量や観光、建設・不動産セクターの成長を背景に7.9%となった。また、外貨準備や原油埋蔵量も湾岸諸国でそれぞれ2位と3位。人口1千万人で、自国民比率が1割と低いことから、自国民一人あたりのGDP、外貨準備、原油埋蔵量ともに、サウジに対比して高く、カタール同様、外国人も積極活用しつつ経済運営。観光、金融、再生エネルギーなど経済の多角化も推進中。

#### 観光や地域のハブとして発展してきたドバイ



未来博物館



La Mer ビーチ



ダウNTOWN

### 2 サウジアラビアの地域ハブ化戦略

サウジ政府は、2021年2月に地域会社誘致策を公表し、外資企業に対して、中東・北アフリカ地域における戦略立案機能や管理機能を有する地域拠点をサウジ国内に設置するイ

ンセンティブを付与。KAFDという国際金融センターの設立も相まって、中東の地域ハブを目指している。また、サウジは、観光や工業化に寄与する各種大型プロジェクトを推進中で、内外のプレイヤーとの協働機会を提供。

### サウジの大型プロジェクト推進計画

	NEOM	Diriyah Gate(ディルイーヤ・ゲート)	Qiddiya
総額	5,000億ドル	630億ドル	500億ドル
概要	紅海沿いの未来都市建設計画 	リヤドの歴史地域を世界最大の文化・観光地域として再開発する計画 	リヤド郊外の巨大エンタメ・スポーツ施設の建設計画 

(出典) サウジ政府公表資料ほか



Diriyah 歴史地区のカフェ



ホースショーのラウンジ



KAFD 金融特区

## (2) 両国のアートイベントや投資の概要

### 1 サウジアラビア

- ・ 国家改革計画であるVision2030に沿った経済多角化や文化政策を補強すべく、エンターテインメント分野に加えてアートも積極活用。
- ・ 首都リヤドでは、2021年から世界最大規模の光のアート展や現代アートのビエンナーレを開催。2023年には国内初の現代美術館をオープン。
- ・ 2019年3月に王令で設立されたRiyadh Artは、国家支援のもと、首都リヤドを政治・経済だけではなく、文化の中心とすべく、各種アートイベントを積極推進。

Noor Riyadh 2023	
世界最大規模のライトアート展（6つのギネス記録）	
場所	サウジの首都リヤド（JAX District、国際金融センター等5つのハブで開催）
期間	2023年11月20日から12月16日 関連の展示会「Refracted Identities, Shared Futures」は2024年3月2日迄開催
作品	30か国から100名以上のアーティストが参加し、作品は120以上
テーマ	The Bright Side of the Desert Moon
キュレーター	Jerome Sans, Pedro Alonzo, Alaa Tarabzouni , Fahad Bin Naif.
関連展示会	Neville Wakefield , Maya Al Athel

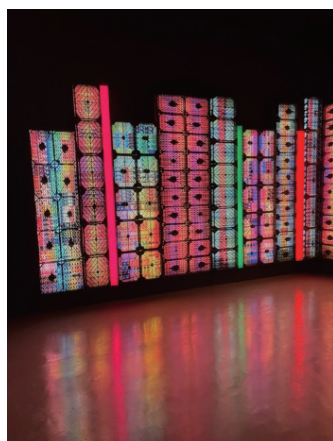
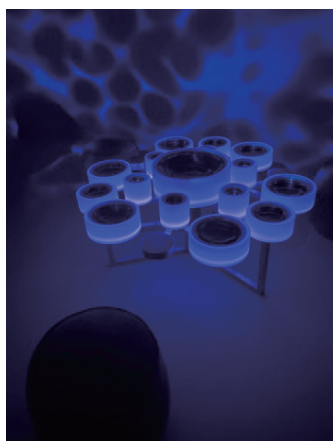


金融特区をドローンで照らす Drift による  
Desert Swarm というライトアート

(出典) Riyadh Art

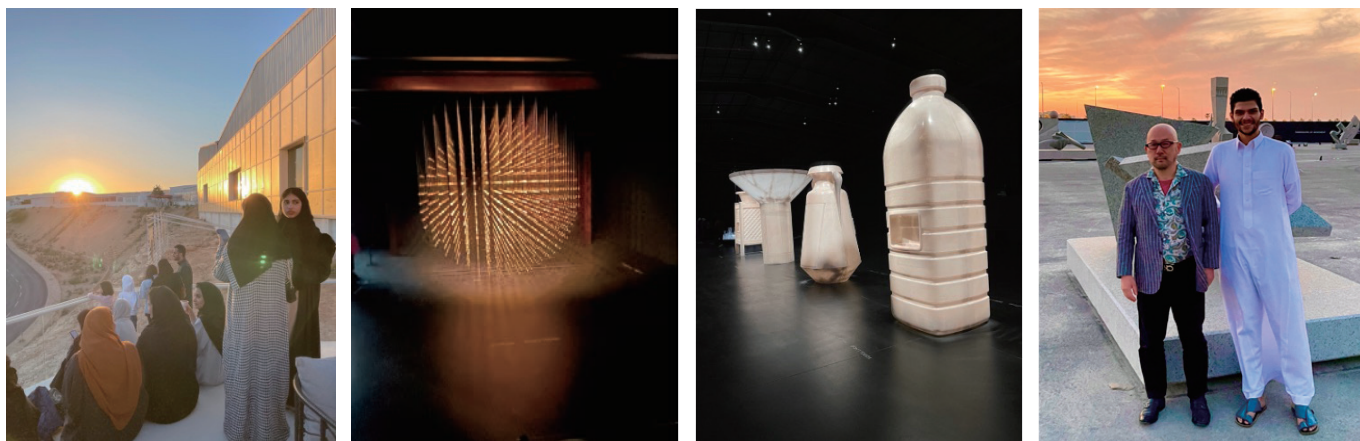


ギャラリーが集積する  
JAX 地区



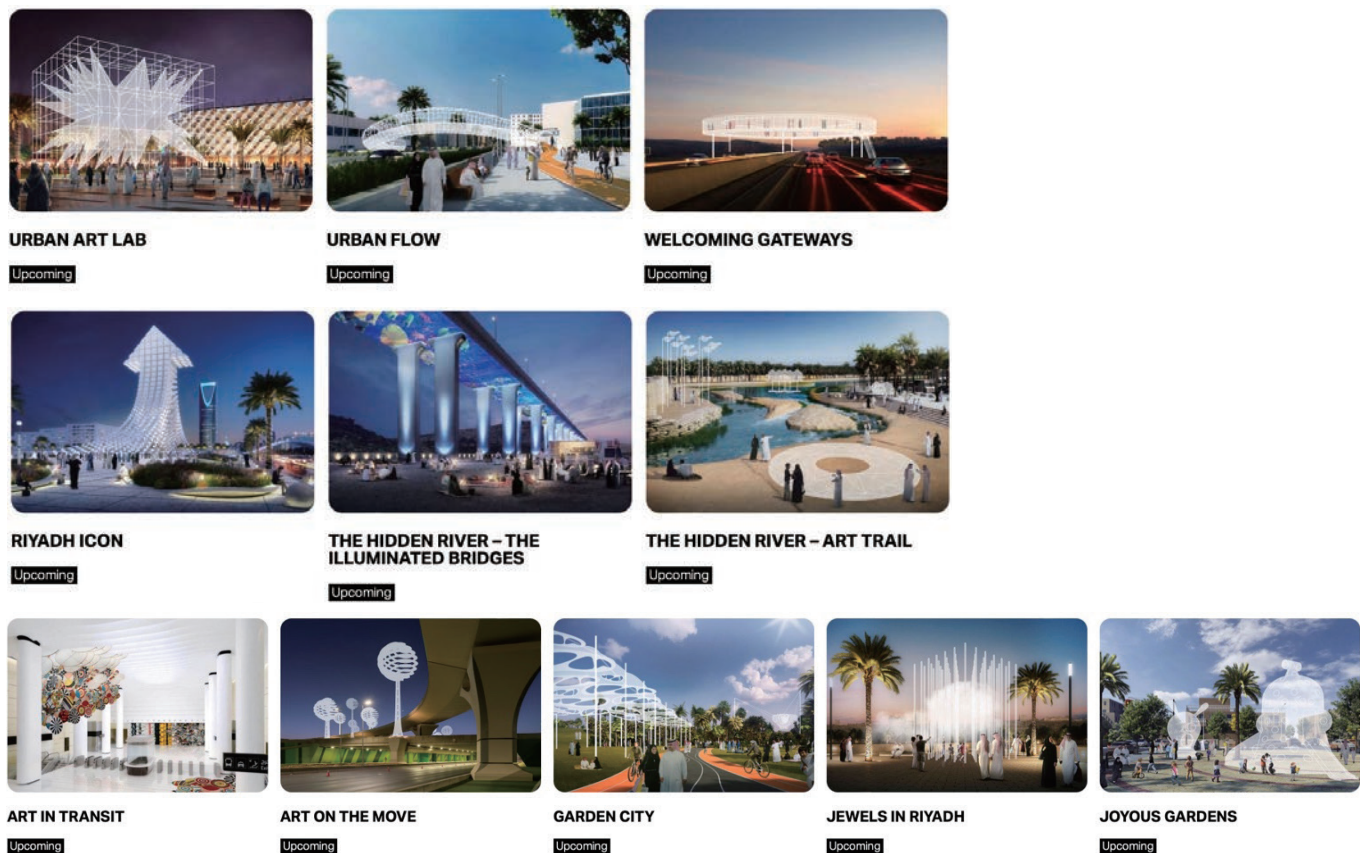
Noor Riyadh の展示会を事務局幹部に案内してもらいながら見学

Diriyah Contemporary Art Biennale 2024	
サウジアラビアで2回目の現代アートのビエンナーレ	
場所	サウジの首都リヤド (JAX District)
期間	2024年2月20日から5月23日
作品	サウジや湾岸諸国や東南アジア他のアーティスト
テーマ	After Rain
キュレーター	Ute Meta Bauer



ビエンナーレ会場と郊外の彫刻作品展示場

・ Riyadh Art は今後も以下のように、盛り沢山のアートイベントを計画。



(出典) Riyadh Art 発表計画から抜粋

- ・また、アルウラー（AlUla）では、巨額な文化都市化プロジェクトが進行中。
- ・当地では、2029年迄に大規模現代美術館を開業する予定で、2023年にフランスのポンピドーセンターとは作品融通やプロフェッショナルアドバイスのパートナー契約を締結

Desert X AlUla 2024	
世界遺産の砂漠地帯を会場にした3回目のアート展	
場所	サウジのAlUla
期間	2024年2月9日から3月23日
作品	サウジや国外アーティスト17名
テーマ	the Presence of Absence
Art Director	Maya El Khalil and Marcello Dantas



(出典) Desert X, AlUla

訪問者数や開発計画等
<b>Noor Riyadh（野外での光のアート展）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 期間：2023.11/30-12/16</li> <li>➢ 訪問者数：300万人</li> </ul>
<b>Diriyah Biennale(リヤドでの現代アートビエンナーレ)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 期間：2024.2/20-5/24</li> <li>➢ 訪問者数：前回は10万人超</li> </ul>
<b>AlUlaアート・文化地域プロジェクト</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 35億ドルの開発計画。地域全体を生きた美術館にする計画で、エコツーリズムの整備なども進めて、観光事業を促進。</li> <li>➢ 2035年迄に雇用3.8万人の創出、毎年訪問者が2百万人、GDP 320億ドルの計画</li> </ul>
<b>ジェッダ・イスラム・ビエンナーレ</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 期間：2023.1/23-5/23</li> <li>➢ 訪問者数：60万人超</li> </ul>

(出典) Riyadh Art, 政府発表, メディア等

## 2 UAE

- ・シャルジャ・ビエンナーレ（1993年から）やアート・ドバイ（2003年から）の開催に加えて、アブダビのルーブル美術館（2017年開業）やグッゲンハイム美術館（2025年開業予定）の誘致等、UAEは、経済多角化や自国ブランディングでアートを積極活用。

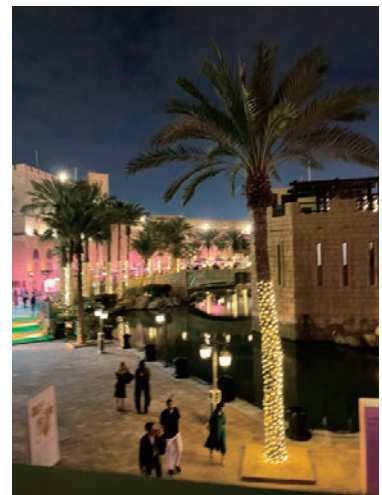
地域を代表するビエンナーレで15回目	
場所	シャルジャ首長国内5都市19か所
期間	2023年2月7日から6月11日
作品	160名の内外のアーティストとコレクティブ
テーマ	Thinking Historically in the Present
Art Director	Hoor Al Qasimi（あいち2025の芸術監督）



ビエンナーレ会場

（出典）Wall Paper

Dubai Art 2024	
首長スポンサーの地域を代表するアートフェアで17回目	
場所	ドバイのビーチリゾートホテルMadinat Jumeirah
期間	2024年2月28日から3月3日
参加ギャラリー	ドバイの地元21社に加えて、50か国以上から72社の現代アートギャラリーが参加
Art Director	Pablo del Val



Dubai Art 会場



Louvre Abu Dhabi	
2007年3月のUAEとフランスとの文化交流協定に基づき17年に開業した、地域を代表する美術館	
場所	アブダビ首長国のSaadiyat（サアディヤット）島
作品	フランスルーブル美術館等から幅広い年代の作品を取得。



美術館内部

アブダビ・サアディヤット島文化地区開発構想
ルーブルアブダビに加えて、同島にグッゲンハイム美術館や国立美術館も開業予定。ギャラリーやレストランなども誘致する計画



完成予想図。左上からサアディヤット文化地区全要、国立美術館、グッゲンハイム美術館  
(出典) アブダビルーブル

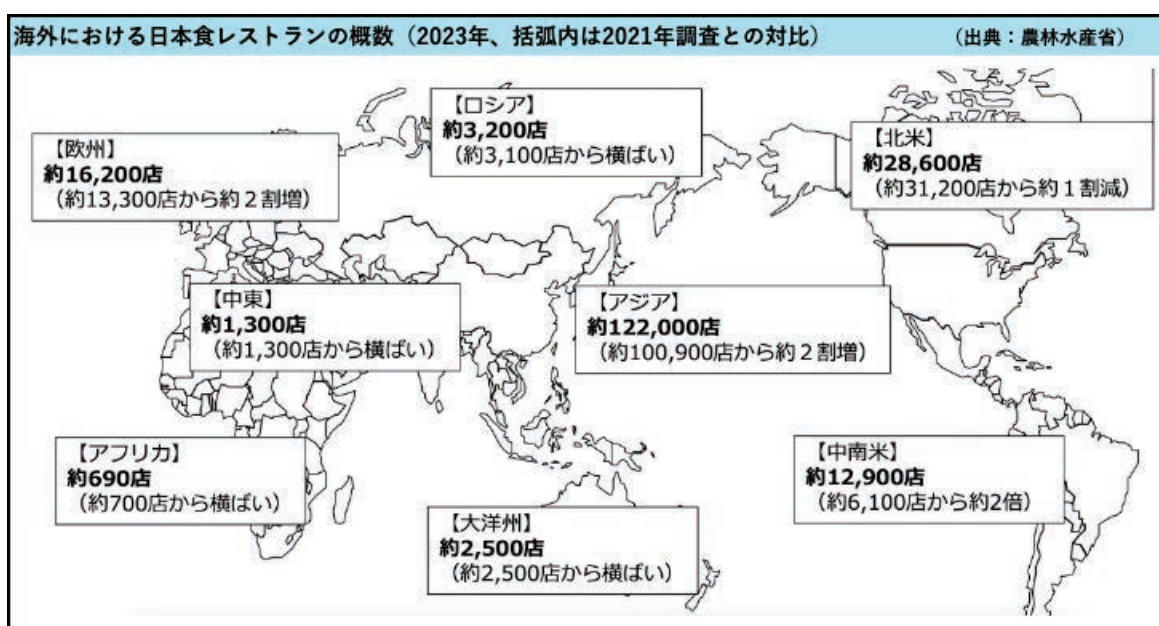
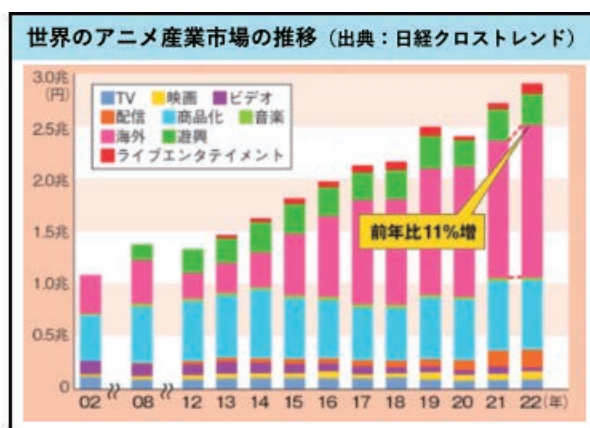
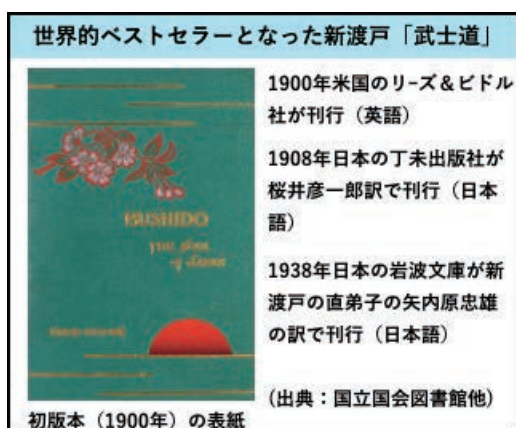
訪問者数や開発計画等
<b>Dubai Art</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 期間：2023.3/1-3/5 訪問者数：3.4万人</li> <li>▶ ドバイ外からの参加者8,557人の78%がDubai Art参加目的でドバイ訪問。経済効果はAED143million(約60億円)</li> </ul>
<b>Louvre Abu Dhabi</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 訪問者数：17年の開業以来累積400万人以上（23年6-8月で20万人以上）</li> <li>▶ フランス側に誘致コストとして支払った金額は10億ユーロ以上で内訳は以下の通り</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>①ルーブル美術館：5.25億ユーロ以上（30年間にわたるブランド料の合計4億ユーロ、1億ユーロ以上の商業利用権、0.25億ユーロのスポンサーシップ）</li> <li>②フランス文化遺産に関する助言料：5.49億ユーロ（20年間にわたる専門助言料1.64億ユーロ、10年間のアート作品貸与料1.9億ユーロ、2017年から2032年迄の展示展費用1.95億ユーロ）</li> </ul>

(出典) 政府発表, Dubai Art, メディア等

### (3) 日本へのインプリケーション（文化・アート政策やビジネスチャンスなど）

#### 1 アートや文化によるソフトパワー外交

- ・国力は、人口、軍事力、経済力など多様な要因で決まるとされているが、アートや文化も外交、経済、観光等に大きな影響を及ぼし、国力の重要な源泉。
- ・上述のように、サウジアラビアやUAEでは、国家のブランディング向上や経済活性化のためにアートを積極活用。フランスも文化外交を積極的に展開し、両国のアート普及支援や関連ビジネスに深く関与。
- ・日本では、明治時代に、日本人の精神性や伝統文化を世界に理解してもらう目的で新渡戸稲造によって英語で書かれた「武士道」が、ドイツ語、フランス語など多言語に翻訳され、セオドア・ルーズベルト大統領を含む多くの外国人に感銘を与え、日露戦争等の動向にも影響を及ぼした。現代でも外交というレベルまでではないにせよ、アニメ、漫画、日本食、庭園などの伝統文化がソフトパワーとして世界の多くの人々に影響を与えている。

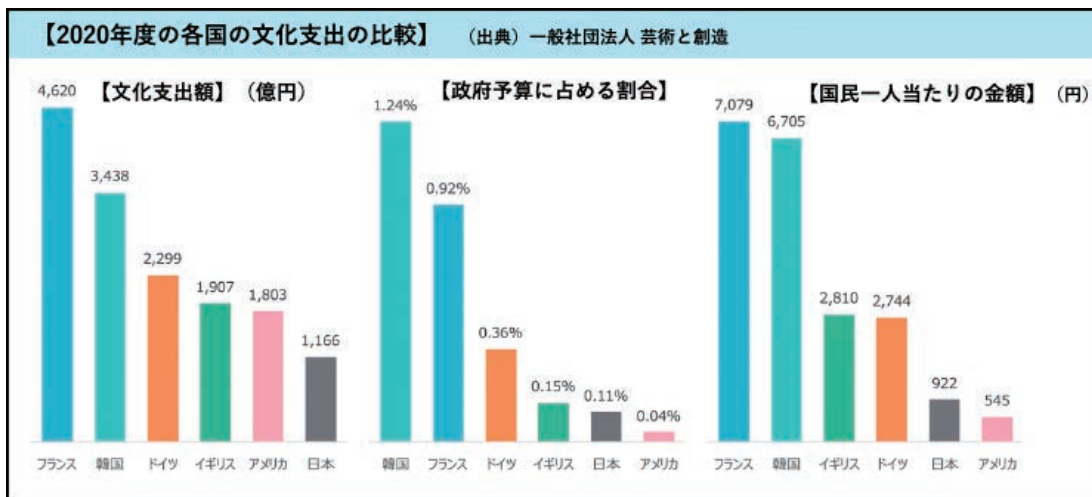


## 2 アート産業活性化と日本のソフトパワー外交強化

- ・グローバル化への適応の遅れ、税制問題、国内富裕層へのリーチの不十分さなどから、日本のアート産業は経済規模に比して小さく、国際的なアートフェアである Basel や Frieze も、アジアでのメイン開催地として日本ではなく、地域のアートハブとしてのエコシステムがより整備されている、香港（2013年から）と韓国（2022年から）をそれぞれ選択。
- ・「アンホルト・イブンス国家ブランド指数」で2023年に世界一位になるなど、日本は国家としてのブランド力を確保している一方で、こうしたブランド力を駆使した、アートを含むグローバルなビジネスや文化外交の展開は、今後更に、さまざまな戦略を策定していく余地があると考えられる。
- ・日本のアート産業の活性化や海外へのリーチ強化は、有力者とのネットワーク構築、一般メディアでは入手不能な情報集積、幅広い層との相互理解向上等により、今後のビジネス展開やソフトパワー外交強化にも寄与。戦略的なアート文化支援政策を重要な国家戦略と位置付けることは、国力強化にも資すると考えられる。

	Art Basel香港2024	Friezeソウル2023
開催日	VIP 3月26日・27日、Public 3月28日-30日	VIP 9月6日、Public 9月7日-9日
参加ギャラリー数	242	120
概要	Art Basel 香港は、世界最大級のアートフェアであるBaselの香港版。2023年度の世界アート市場でシェア第二位(16%)を占める中国市場へのアクセスを背景に、世界的なギャラリーが参加。また、香港にはアジア最大級のヴィジュアル・カルチャー博物館「M+」をはじめとする文化施設が多数あり、二大オークションハウスもオフィスを構えている	Friezeは2003年にロンドンで創設され、その後ニューヨークやロサンゼルスでも開催。2023年にはソウルでのフェアが2年目を迎えた。同時に、21年の歴史を持つ地元のアートフェア、キアフも開催。韓国政府が芸術や文化のハブとしてソウルを推進する強力な支援のもと、世界の有力ギャラリーが参加
ネットワーキング	アートフェアの会場内での交流だけでなく、ギャラリーやオークションハウスが主催するパーティが連日、美術館やホテルなどで開催。これらは、アート関係者間の情報交換の場にとどまらず、ビジネスや外交・地域情勢などの最新情報を更新する機会ともなっている	

(出典) アートフェア公表資料等



### 3 湾岸諸国のアート活用政策と日本の積極的関与

- ・サウジアラビアや UAE は、上述のように国策として巨額の投資を行い、美術館やアート展、関連観光インフラを整備。両国は、基本的に親日国であり、共同のアート展の開催や観光インフラの整備への関与、ノウハウ提供など、日本が積極的に関与する余地があると思われる。
- ・こうした共同作業は、日本のアート産業のグローバル化を促進するとともに、古典から近代に至る迄の、より幅広い日本アートの再評価やプロデュースにもつながり、日本のソフトパワー外交強化にも寄与すると思われる。

ビジネスチャンス（一例）
1 アート関連施設新設・整備プロジェクトにおける設計・建設・運營業務など
2 観光促進のためのホテルや商業施設整備プロジェクトの設計・建設・運營業務など
3 住居・別荘開発プロジェクトの設計・建設・運營業務など
4 空港の拡張、高速道路や鉄道などの交通インフラ整備プロジェクト
5 アート作品の取次や関連イベントプロデュース
6 アートギャラリー業務
7 観光ツアーの企画・アレンジ業務
8 防災システムや管理システム
9 物流・ロジスティック関連ビジネス
10 照明・環境関連ビジネス

アート関連での共同分野（一例）
1 サウジあるいはUAEとの国際的なアートフェスティバルの共同開催
2 サウジあるいはUAEとのビエンナーレや展覧会などに合わせた共同アート展の実施
3 上記1、2については、現代アート以外にも、建築・デザイン・陶芸なども入りうる
4 アート・レジデンシープログラムでそれぞれの国のアーティストが一定期間相手国に移住し政策活動
5 共同アニメーションプロジェクト

※当記述は、現在あるいは過去に所属した組織とは一切関係なく、筆者の個人的見解。写真は出典の記載がないものは、筆者が個人撮影したもの。